

『オズの魔法使い』に学ぶ組織作り

主体的に動く - アカウンタビリティ・マネジメント

アメリカで50万部を超えるベストセラーとなった『主体的に動く - アカウンタビリティ・マネジメント』(原題:『The OZ Principle <オズの原則>』)が、(株)コーチ・トゥエンティワン及び(株)コーチ・エイの代表取締役 伊藤守の監訳により9月10日、ディスカヴァーより発売されます。著者は、ロジャー・コナーズ、トム・スミス、クレイグ・ヒックマン。

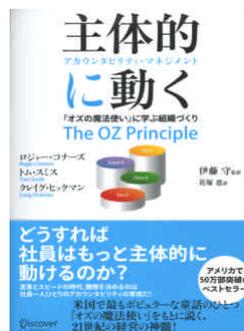
近年のように経済が停滞し、企業収益が著しく悪化している中、すべての経営者と管理職にとって、主体的に動く社員をどうしたら育てられるのかは切実な問題です。本書の著者は、そういった社員を育て、結果を出す組織をつくるために、「アカウンタビリティ」を高めることが必要だと説きます。「アカウンタビリティ」とは「被害者意識」に対比するものとして、「自分が問題の当事者であると考え、自分の意志で主体的に行動しようとする意識」を意味します。もともとは会計用語だったこの言葉は、本書により新しい定義となり、アメリカのマネジメントの世界に浸透するきっかけとなりました。アメリカで最もポピュラーな童話のひとつ『オズの魔法使い』の登場人物たちが「被害者意識」から脱し、自分の願いをかなえる能力は自分にあると気づく過程を引用しながら、個人と組織がアカウンタビリティを高めていく方法を紹介しているところに本書の特徴があります。

本書の目的は、「イノベーション、リーダーシップ、生産性、顧客満足、品質、チーム活動のすべてにおいて結果を出せるようになることである。そのために、結果を生み出す根源を突く。その根源こそ、今の企業に不可欠なものである。」とあります。本書では、米国の企業事例も豊富にまじえ、衰退に傾いた企業を再び成長路線にもどすためには「アカウンタビリティ」が必要であると説きます。また、「アカウンタビリティ」を身につけるための手法として、コーチングの必要性も説かれています。

日本でも、マネジメントの世界では徐々に浸透してきている「アカウンタビリティ」の概念。本書をきっかけに、「アカウンタビリティ」がビジネスの現場での共通用語となり、それを多くの人が身につけることが期待されます。

本書の概要

書名： 主体的に動く - アカウンタビリティ・マネジメント
著者： ロジャー・コナーズ/トム・スミス/クレイグ・ヒックマン
監訳： 伊藤守 訳：花塚 恵
定価： 1,800円(税抜)
版形： 四六版 ハードカバー 320ページ
発行日： 2009年9月10日
出版元： ディスカヴァー
内容：



第1部 アカウンタビリティが結果を出す - オズの原則

- 第1章 ビジネスにおける本当の意味の「責任」とは
 - 第2章 被害者意識の悪循環に気づく
 - 第3章 結果を出すことに責任を持つ
- 第2部 自分のアカウンタビリティを伸ばす
- 第4章 勇気を持って「現実を見つめる」臆病なライオンのように
 - 第5章 「当事者意識を持つ」ためのハートを手に入れる - ブリキの木こりのように
 - 第6章 「解決策を見いだす」ための知恵を手に入れる - かかしのように
 - 第7章 すべてを行動に移す - ドロシーのように

第3部 組織全体がアカウンタビリティを身につける

- 第8章 ライン上のリーダーシップを身につける - 善い魔女グリンドのように
- 第9章 組織全体をライン上へ導く - エメラルド・シティを超えて
- 第10章 組織が抱える問題に オズの原則 を応用する

上記の件に関するお問い合わせは
株式会社 コーチ・トゥエンティワン 広報担当 :市川 / TEL: 03-3237-9781 <http://www.coach.co.jp>